

事業番号

2023 - 府 - 22 - 0146

令和5年度行政事業レビューシート

(内閣府)

事業名	各国アカデミーとの交流等の国際的な活動			担当部局庁	日本学術会議	作成責任者	
事業開始年度	昭和23年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(国際業務担当)	大沼 和善 参事官	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	日本学術会議法第2条			関係する 計画、通知等	-		
政策	26. 日本学術会議			主要経費	その他の事項経費		
施策	29. 日本学術会議に関する施策の推進						
政策体系・評価書URL	https://www8.cao.go.jp/hyouka/h29hyouka/h29iigo/h29iigo-24.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	日本学術会議法第2条に基づき、わが国の科学者の内外に対する代表機関(科学者の代表として選出された会員210名と連携会員約2,000名で構成)として、政策決定者に対して、科学者としての専門的かつ信頼性のある報告等を行うことで、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させる。						
現状・課題 (5行程度以内)	日本学術会議は日本の科学者の内外に対する代表機関であり、国際会議の日本開催、国際会議への参加、国際学術団体等の総会への代表派遣といった国際活動を通じて、学術の進歩と世界の諸問題の解決に寄与している。課題としては、加入国際学術団体での活動成果について広報等を通じて、活動に対する国民の理解を得られるよう努めることや、新型コロナウイルスの影響により国際会議が中止されたことに伴う活動実績の低下が挙げられる。						
事業概要 (5行程度以内)	科学的知見が世界の政策形成に反映されるよう、G7各国等の科学アカデミーと連携して、G7サミットの議題に関し科学的立場から意見を集約し、共同声明を発出するほか、学術研究団体との共同主催国際会議や持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題を議論する国際会議の開催、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するために設立されたアジア学術会議に関連する活動、国際学術団体への加入、国際学術団体総会等への代表派遣などを通じ、国際学術団体との連携を図っている。						
事業概要URL	https://www.sci.go.jp/ia/int/index.html						
実施方法	直接実施						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	197	200.1	220.2	209.7	-
		補正予算(B)	▲1	▲0.5	▲1.9	▲0.3	
		令和5年度第1次補正予算				▲0.3	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)		196	199.6	218.3	209.4	-	
執行額(G)	114	131.5	187.2				
執行率(%) =(G)/(F)	58%	66%	86%				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	58%	66%	86%				
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)	日本学術会議			事項要求		
	(目)	国際学術連合会議等分担金	131.4				
	(目)	国際学術会議開催庁費	40.6	-			
	(目)	委員等旅費	21.0	-			
	(目)	職員旅費	8.0	-			
	(目)	外国人招へい旅費	5.0	-			
	その他	3.7	-				

		計(A)	209.7	-					
活動内容① (アクティビティ)	アジア学術会議は、アジア地域における学術的な協力を促進するため、アジアの18各国・地域の31の学術機関が加盟する国際学術団体。例年、加盟各国地域の機関が持ち回りで国際シンポジウムを開催している。日本学術会議は、アジア学術会議の事務局を恒常的に務めており、アジア学術会議全体の運営の管理や、国際シンポジウム開催に係る主催機関の支援等を行っている。								
↓									
活動目標及び活動実績① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	アジア学術会議の開催	定期的な会議の開催	活動実績	回	-	2	-	-	-
			当初見込み	回	1	1	1	1	1
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	アジアにおける科学に関する意見交換プラットフォームとしてアジア学術会議を年1回開催し、参加者数を確保することが、アジア地域における学術的な協力の促進につながるため。							
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)								
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)								
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
	【令和3年度まで】参加国、地域や学術団体の参加者の維持、拡充を図り、安定的な参加者数を確保	参加人数	成果実績	人	-	1,070	-	-	
	【令和4年度以降】アジアにおける科学に関する意見交換プラットフォームとして、現状や課題を広く共有する。		目標値	人	200	200	200	200	
	達成度		%	-	535	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績									
会議ホスト国がカウントした参加人数。 ※令和2年度は新型コロナウイルスの影響で延期され、令和3年5月に開催された。また、令和4年は3月に開催された。そのため、令和3年度は実績が2回となっている一方、令和2年度と令和4年度の開催実績がない。次回は、令和5年10月に韓国で開催される予定。									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
会議ホスト国は毎年変わるため、定量的に設定できるアウトカムは参加人数のみであり、また、アクティビティであるアジア学術会議の実施が、成果目標である現状や課題を広く共有することと直接結びつくため。									

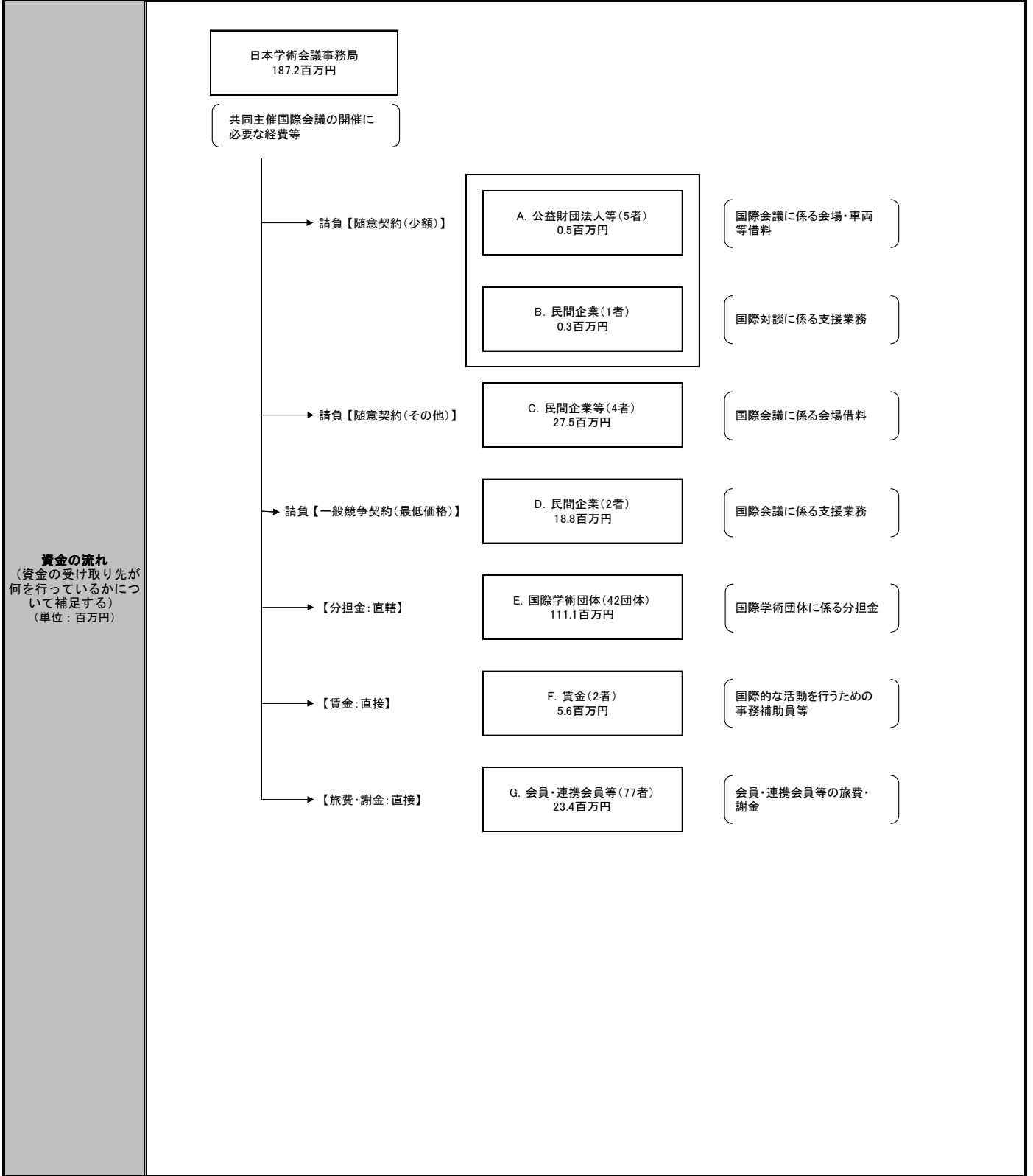
活動内容② (アクティビティ)	分担金を拠出している42の団体を含む国際学術団体の総会等へ、日本学術会議の会員・連携会員等を派遣することにより、日本の学術の動向を発信するとともに、団体の運営への参画や世界の学術に関する動向の把握等を行う。																																				
↓																																					
活動目標及び活動実績② (アウトプット)	活動目標 国際学術団体の総会等への派遣	活動指標 派遣回数	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単位</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和4年度</td> <td>5年度 活動見込</td> <td>6年度 活動見込</td> </tr> <tr> <td>活動実績</td> <td>回</td> <td>45</td> <td>29</td> <td>50</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>当初見込み</td> <td>回</td> <td>47</td> <td>54</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>-</td> </tr> </table>		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	活動実績	回	45	29	50	-	-	当初見込み	回	47	54	26	26	-													
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込																															
活動実績	回	45	29	50	-	-																															
当初見込み	回	47	54	26	26	-																															
↓ 成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	国際学術団体の総会等へ安定的な人数を派遣することが、世界の学界との連携、国際学術団体の運営への参画等や日本の学術の動向の発信につながるため。																																				
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)	成果目標 -	定量的な成果指標 -	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単位</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和4年度</td> <td colspan="2">目標年度 - 年度</td> </tr> <tr> <td>成果実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> </table>		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		成果実績	-	-	-	-	-		目標値	-	-	-	-	-		達成度	%	-	-	-	-							
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度																																
成果実績	-	-	-	-	-																																
目標値	-	-	-	-	-																																
達成度	%	-	-	-	-																																
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績																																					
↓ 成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)																																					
成果目標及び成果実績②-2 (中期アウトカム)	成果目標 -	定量的な成果指標 -	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単位</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和4年度</td> <td colspan="2">目標年度 - 年度</td> </tr> <tr> <td>成果実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> </table>		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		成果実績	-	-	-	-	-		目標値	-	-	-	-	-		達成度	%	-	-	-	-							
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度																																
成果実績	-	-	-	-	-																																
目標値	-	-	-	-	-																																
達成度	%	-	-	-	-																																
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績																																					
↓ 成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)																																					
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)	【令和3年度まで】 令和4年度以降も国際学術団体の総会等への派遣者数を確保する。 【令和4年度以降】 世界の学界との連携、同団体の運営への参画、学術の動向の把握等を行う。	【令和3年度まで】 派遣者数 【令和4年度以降】 会議の平均参加者数	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単位</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> <td>令和4年度</td> <td colspan="2">目標最終年度 5 年度</td> </tr> <tr> <td>成果実績</td> <td>人</td> <td>45</td> <td>53</td> <td>804</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>人</td> <td>47</td> <td>54</td> <td>300</td> <td colspan="2">636</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> <td>95.7</td> <td>98.1</td> <td>268</td> <td colspan="2">-</td> </tr> </table>		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度		成果実績	人	45	53	804	-		目標値	人	47	54	300	636		達成度	%	95.7	98.1	268	-							
	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度																																
成果実績	人	45	53	804	-																																
目標値	人	47	54	300	636																																
達成度	%	95.7	98.1	268	-																																
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	【令和3年度まで】日本学術会議代表派遣リスト 【令和4年度以降】日本学術会議代表派遣リスト、代表派遣会議出席報告書 ※令和3年度は新型コロナウイルスの影響により複数の会議が中止、またはオンライン会議及びハイブリッド会議で開催された。実績はオンライン会議及びハイブリッド会議で開催された会議への派遣会議数及び派遣人数。 ※令和4年度はオンライン会議及びハイブリッド会議で開催された。実績(暫定値)はオンライン会議及びハイブリッド会議で開催された会議の平均参加者数。																																				
アウトカム設定について の説明	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由																																				
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由																																				
国際学術団体の総会等は規模、内容が様々であり、定量的に比較できる数値は参加者数しかないため。																																					

活動内容③ (アクティビティ)		日本学術会議では昭和28年度以降、国内で開催され、学術研究団体が主催する国際会議のうち、「学問的意義が高く」、「科学的諸問題の解決を促進する」等、特に重要と認められる国際会議について、共同主催を行うことにより、学術研究団体への支援・協力を行っている。この共同主催国際会議は、閣議口頭了解に基づき開催されており、例年、数件の会議は皇室ご臨席として実施される他、市民公開講座を必須条件とし、市民への学術の還元にも努めている。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		国内外の学術振興、国内若手研究者の研究支援・育成、国際的な学術研究団体との組織的な交流、研究者間のネットワーク構築、研究成果の社会への還元等への寄与。	共同主催国際会議の開催件数	活動実績	回	1	6	9	-	-
				当初見込み	回	7	7	11	9	6
↓		成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)								
		共同主催国際会議を毎年開催し、共同主催国際会議の参加者数を共同主催団体との協力の中で確保することが、国内外の学術研究の振興や研究者間のネットワーク構築等や市民への学術の還元にもつながるため。								
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
				成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
↓		成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)								
成果目標及び成果実績 ③-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
				成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
↓		成果目標③-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
		各会議が目指す参加者数を共同主催団体との協力の中で確保し(毎年度合計で目標数値程度)、国内外の学術研究の振興や研究者間のネットワーク構築等に寄与する。	共同主催国際会議の参加人数	成果実績	人	1,927	6,160	12,990	-	
				目標値	人	11,700	12,900	19,195	16,700	
				達成度	%	16.5	47.8	67.7	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		共同主催国際会議開催結果報告 (http://www.scj.go.jp/ja/int/kaisai/kako.html#kyodo) ※令和4年度は新型コロナウイルスの影響により2件の会議が中止。開催された9会議全てがハイブリッドで開催されたため、実績はハイブリッド会議の件数及び参加人数。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		日本学術会議が行う共同主催国際会議は、規模、内容が様々であり、定量的に比較できる数値は参加人数しかないため。								

活動内容④ (アクティビティ)		国内外から様々な分野の科学者を招き、一般参加者を対象に、持続可能な社会の実現に向けた科学と技術に関する国際会議を開催している。									
↓											
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		科学者の意見を政策決定過程に効果的に反映させることを目的として、主に「持続可能な社会のための科学と技術」をキーワードに国際シンポジウムを開催。	国際シンポジウムの開催	活動実績	回	1	1	1	-	-	
				当初見込み	回	1	1	1	1	1	
↓		成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)									
		国際シンポジウムを毎年開催して参加者数を確保し、参加者の満足度を確保することが、持続可能な社会の実現に向けた科学と技術に関する理解の促進へつながるため。									
成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		
		-	-	成果実績	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-									
↓		成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)									
		-									
成果目標及び成果実績 ④-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		
		-	-	成果実績	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-									
↓		成果目標④-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)									
		-									
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度		
		【令和3年度まで】国際シンポジウムへの一般参加者数について、令和4年度以降も安定的な参加者数を確保。 【令和4年度以降】国際シンポジウムの参加者の満足度の確保。	【令和3年度まで】国際シンポジウムの参加人数 【令和4年度以降】国際シンポジウム後アンケートでシンポジウムを肯定的に評価した者の割合(単位:%)	成果実績	人または%	266	274	86	-		
				目標値	人または%	180	180	55	55		
				達成度	%	147.8	152.2	156.4	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		【令和3年度まで】 国際シンポジウム参加者リスト ※令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン開催。 【令和4年度以降】 国際シンポジウム参加者アンケート									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由									
		-									
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由									
		定量的な成果目標はシンポジウムを肯定的に評価した者の割合しか入手できないため。									

活動内容⑤ (アクティビティ)	毎年、G7サミットに提言を行う目的で、その年のG7議長国のアカデミーが主催し、各国アカデミーによる共同声明が取りまとめられている。日本学術会議は日本のアカデミーを代表してこの会議に出席し、共同声明の作成に貢献している。作成された共同声明は、日本学術会議会長から総理へ直接手交されている(令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの影響で手交見送り)。							
↓								
活動目標及び活動実績 ⑤ (アウトプット)	活動目標	活動指標	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	【令和3年度まで】 G7サミットに対し、提言を行うためGサイエンス学術会議に出席する。 【令和4年度以降】 G7サミットに対する提言として、共同声明を取りまとめる。	【令和3年度まで】 出席したGサイエンス学術会議の回数 【令和4年度以降】 発出した共同声明の数	活動実績 回または件	1	-	7	-	-
		当初見込み	回または件	1	1	6	3	3
↓	成果目標⑤-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) 科学的見地からの提言がG7サミットでもテーマとして扱われることが、G7サミットの議論に貢献することにつながるため。							
成果目標及び成果実績 ⑤-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績								
↓	成果目標⑤-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)							
成果目標及び成果実績 ⑤-2 (中期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績								
↓	成果目標⑤-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)							
成果目標及び成果実績 ⑤-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
	【令和3年度まで】 G7サミットに対する提言として、共同声明を取りまとめる。 【令和4年度以降】 科学的見地からの提言として、G7サミットの議論に貢献する。	【令和3年度まで】 発出した共同声明の数 【令和4年度以降】 G7サミットでも扱われたテーマの数	成果実績 件	7	-	6	-	-
			目標値 件	3	3	6	3	3
			達成度 %	233.3	-	100	-	-
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	【令和3年度まで】 日本学術会議HP https://www.scj.go.jp/ja/int/g8/index.html ※共同声明の発出数を会議の開催単位で計上していたところ、アウトカム設定にあたり計上方法を見直したため、会議の開催回数を単位当たりコストの算出根拠とし、共同声明の数を成果指標とすることとした。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「Gサイエンス学術会議2020」は開催されず令和2年4、5月にメールベースで共同声明が4件取りまとめられた。令和3年3月に「Gサイエンス学術会議2021」がオンラインで開催され共同声明が3件取りまとめられた。 【令和4年度以降】 日本学術会議HP (https://www.scj.go.jp/ja/int/g8/index.html) 及び外務省HP (https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/summit/index.html) ※令和4年度は、令和4年5月に、令和3年度に開催が予定されていた「Gサイエンス学術会議2022」が開催され、令和5年3月に「Gサイエンス2023」が開催された。							
アウトカム設定について の説明	アクティビティ⑤について定性的なアウトカムを設定している理由							
	アクティビティ⑤についてアウトカムが複数設定できない理由							
	定量的な成果目標は G7サミットでも扱われたテーマの数しか入手できないため。							

令和3年度	2021	府	20	0152															
令和4年度	2022	府	21	0156															



費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金額が 支出されている者について記載 する。費目と使途の双方で実情が 分かるように記載)	C.			D.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
	借料	会場賃貸借	13	役務	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022」支援業務	9.7	
	計		13	計		9.7	
	E.			F.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
	分担金	ISC: 国際学術会議	30.4	賃金	国際的な活動を行うための事務補助員	3.8	
	計		30.4	計		3.8	
	G.			H.			
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
	旅費	委員等旅費、職員旅費、外国人招へい旅費	8				
	計		8	計		0	
	費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						<input type="checkbox"/> チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益財団法人広島平和文化センター	4240005012442	会場賃貸借	0.4	随意契約(少額)	-	-	
2	株式会社JALエービーシー	4010001110223	Wi-Fiルーターの賃貸借	0	随意契約(少額)	-	-	
3	彌榮自動車株式会社	7130001019111	車両借上	0	随意契約(少額)	-	-	
4	株式会社ジェイ・アンド・ワイ	1010001141543	国際携帯電話等の賃貸借	0	随意契約(少額)	-	-	
5	株式会社ジェイフィールド	8012301009323	Wi-Fiルーターの賃貸借	0	随意契約(少額)	-	-	

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社ワールドクリエーション	8010401030942	国際対談に係る支援業務	0.3	随意契約(少額)	-	-	

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益財団法人国立京都国際会館	1130005012365	会場賃貸借	13	随意契約(その他)	-	-	
2	株式会社東京国際フォーラム	6010001082469	会場賃貸借	7.4	随意契約(その他)	-	-	
3	森ビル株式会社	1010401029669	会場賃貸借	4	随意契約(その他)	-	-	
4	株式会社コンベンションリンクエージ	8010001092202	会場賃貸借	3.1	随意契約(その他)	-	-	

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社日本旅行	1010401023408	「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2022」支援業務	9.7	一般競争契約(最低価格)	2	-	予定価格が類推されるおそれがあるため、落札率は記載しない。
2	株式会社オーエムシー	9011101039249	「Gサイエンス学会議2023」支援業務	9	一般競争契約(最低価格)	1	-	〃

E

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	INTERNATIONAL SCIENCE COUNCIL	-	ISC: 国際学術会議	30.4	その他	-	-	
2	INTERNATIONAL ASTRONOMICAL UNION	-	IAU: 国際天文学連合	8.4	その他	-	-	
3	INTERNATIONAL UNION OF BIOLOGICAL SCIENCES	-	IUBS: 国際生物科学連合	5.8	その他	-	-	
4	INTERNATIONAL UNION OF PURE AND APPLIED CHEMISTRY	-	IUPAC: 国際純正・応用化学連合	5.6	その他	-	-	
5	SCIENTIFIC COMMITTEE ON OCEANIC RESEARCH	-	SCOR: 海洋研究科学委員会	5.1	その他	-	-	
6	INTERNATIONAL UNION OF GEOLOGICAL SCIENCES	-	IUGS: 国際地質科学連合	5	その他	-	-	
7	INTERNATIONAL UNION OF GEODESY AND GEOPHYSICS	-	IUGG: 国際測地学及び地球物理学連合	4.7	その他	-	-	
8	INTERNATIONAL UNION OF PURE AND APPLIED PHYSICS	-	IUPAP: 国際純粋・応用物理学連合	4.6	その他	-	-	
9	CODATA	-	CODATA: 科学技術データ委員会	4.1	その他	-	-	
10	UNION RADIO-SCIENTIFIQUE INTERNATIONALE	-	URSI: 国際電波科学連合	3.4	その他	-	-	

F

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A	-	国際的な活動を行うための事務補助員に係る経費	3.8	その他	-	-	
2	個人B	-	国際的な活動を行うための学術調査員に係る経費	1.8	その他	-	-	

G

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社阪急阪神ビジネス ラベル	4120001126778	旅費	8	その他	-	-	
2	個人A	-	旅費	0.9	その他	-	-	
3	個人B	-	旅費	0.8	その他	-	-	
4	個人C	-	旅費	0.7	その他	-	-	
5	個人D	-	旅費	0.7	その他	-	-	
6	個人E	-	旅費	0.6	その他	-	-	
7	個人F	-	旅費	0.6	その他	-	-	
8	個人G	-	旅費	0.6	その他	-	-	
9	個人H	-	旅費	0.6	その他	-	-	
10	個人I	-	旅費	0.5	その他	-	-	